土地の記録を再構築

文人の武蔵野

黒井千次と小谷忠典 ②

英国のセント・アンドルーズ映画祭で最優秀撮影賞に輝いた映画「たまらん坂」は、2015年、小金井市在住の小説家黒井千次さん（1932年～）と、小平市在住の映画監督小谷忠典さん(77年～)が田無(西東京市)で出会い、製作が開始されました。

映画「たまらん坂」には小説の作者である黒井千次さん（右）と主人公が語り合う不思議な場面もある（映画「たまらん坂」から）

ドキュメンタリー映像作家としての小谷監督は、手始めに武蔵野大の学生たちと黒井さんの小説「たまらん坂」本文を精読、朗読し、そこに映像をつけていきました。主人公飯沼要助の足取りを追うように、国立駅から国分寺方面への坂道を何度も上り下りしました。監督からの打診で俳優を承諾した学生も同じようにそこを歩き、小谷監督はカメラを持って追いました。

小谷監督が出会った頃の黒井さんは、すでに日本芸術院長です。いかにしてこの大御所と対峙(たいじ)してみずからの作品をものにするか、彼はカメラを持ちながら考えあぐねているようでした。

あるとき小谷監督は、黒井さんを被写体として撮影し始めます。フィクションとしての映画の中で文庫本の「たまらん坂」を黙読していた女子大生ひな子が作者である黒井さんと出会って会話する、という不思議な場面を撮り始めます。今思えば一つの転換点でした。

今の小谷監督と同じ40歳代の黒井さんは、作家活動の傍らテレビやラジオのリポーターを務めていました。その経験は「記録を記録する」（82年）の刊行につながり、「たまらん坂 武蔵野短篇集」(88年）の人物造形にも生かされています。

大学生が小説を読んで土地（武蔵野）をめぐる物語を経験し、そこから自分なりの武蔵野を発見していく様子を映像で記録し、膨大な記録映像を取捨選択して再構築することを繰り返し、映画は完成しました。小谷監督は、黒井さんが言葉を通じておこなった「記録を記録する」ということを、映像でおこなったのです。

（武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍）

おすすめの1冊

「群棲(ぐんせい)」（黒井千次）

「尚(なお)う三軒両隣」という言葉がありますが、本作の舞台は〝向う二軒片隣〟の四軒の家です。かつて東京近郊（武蔵野）は農村地帯でした。やがて地主の農地は分譲されて路地に狭小住宅がひしめき合う光景を作り出しました。タイトル「群棲」は、そこにみられる根を張らない独特の生活状況を表しています。

武蔵野

武蔵野支局 〒180-0006
武蔵野市中町1の13の1 3F
電話 0422(51)3131
FAX 0422(51)3133
musasino@yomiuri.com
都内版編集室
電話03(3217)1465・1466
江東支局 電話03(3631)6116
立川支局 電話042(523)4477
ホームページ
www.yomiuri.co.jp/local/

購読は 0120-4343-81

【広告】読売Palette 03(6272)9027
【折込チラシ】 0120-03-4343
【読売旅行】 03(5550)0666

■あすの暦

12月15日（水曜日）
旧 11月12日＜仏滅＞

通日 349
月齢10.8
（正午）

＝東京標準＝

日出	6.43	満潮	3.04
日入	16.29		14.19
月出	14.02	干潮	8.20
月入	2.50		21.06
			（若潮）

桐たんす 四谷本店に130棹展示
箪笥の松本
10年保証 フリーダイヤル 0120-30-4440